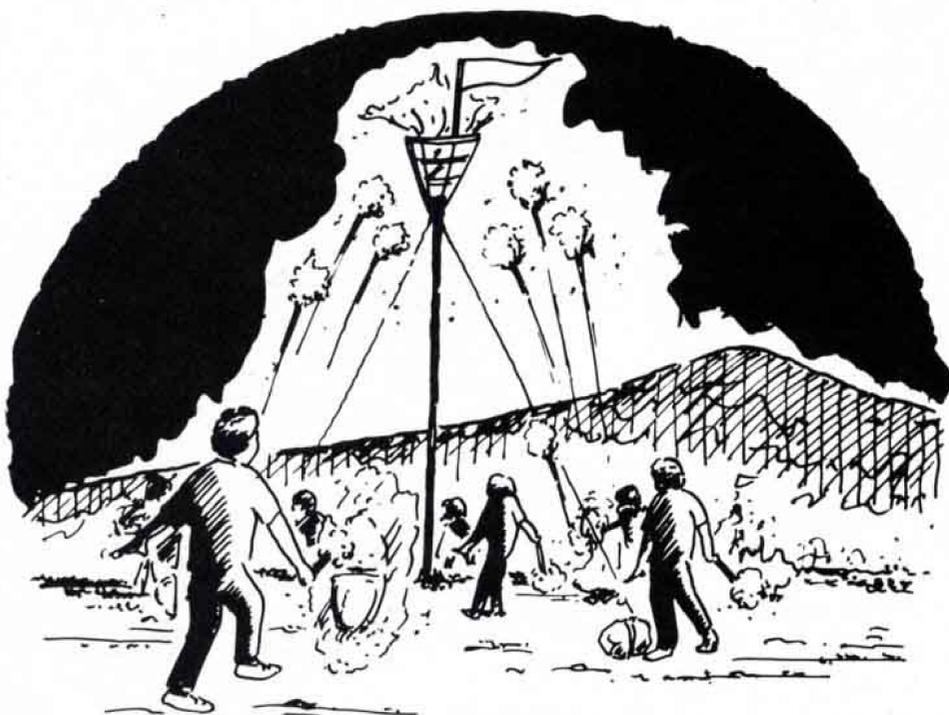




ふるさとのお話

富士川流域に伝わる

投げだいまつ



富士川の流域では昔から、投げだいまつと呼ばれる珍しい祭りが行われていました。

岩松地区の水神に住む鈴木孝一さんは、投げだいまつについて次のように話してくれました。



鈴木孝一さん (水神)

このあたりじゃ、お盆の八月十六日に「投げだいまつ」をやったもんだよ。あれは祖先の供養と川で溺死した人の供養かたがたやるみたいだね。昔は、川で死ぬ人も多かったからね。

この富士川の流域では、ずっと山梨県の方からやってたと思うよ。投げだいまつっていうのは、十斤ぐらいの木の上へ、じょうごのようなかごを竹で編んでつくってね、それへ大豆の皮とか製材のか

んなくずみみたいな物を詰めてつくったね。

それへと火をつけるんだけど、一尺(約三十センチ)ぐらいのたいまつにわら縄のひもをつけて、ぐるぐる回して投げるわけだよ。たいまつもまだ燃え始めのころは、いかくて重たいから、軽くなるとかごになかなか入らなかったよ。どうしても入んないときは、のしてつてつけたんだけど、終戦のころは電気で火をつけたこともあったよ。

昔はお盆っていうと、十六日までしつかり休んだもんだからね。投げだいまつをやる青年も、ずいぶん集まったもんだけどねえ。

あのころは、ほかに娯楽っていうのもなかったし、ほかの村からも見に来てくれて楽しかったよ。今の子供は、そんな楽しみも恐らく知らないんじゃないかな。

いつごろから投げだいまつをやらなくなっただか、終戦で途切れちゃったんじゃないですか。

地名の由来

しま 島 (吉原地区)



この村は中河原村の北、依田橋村の西側にあった村で、明治二十二年三月、津田村などと合併して島田村になりました。延宝八年(一六八〇年)八月の大津波のときまでは二十軒ほどの人家がありました。その後は無人の村となりました。

「田島」という名は、河原か田んぼの中の集落という意味でしょう。このあたりの地下に砂利の層があるので、ずっと昔は富士川だったと思われれます。

こちら編集室

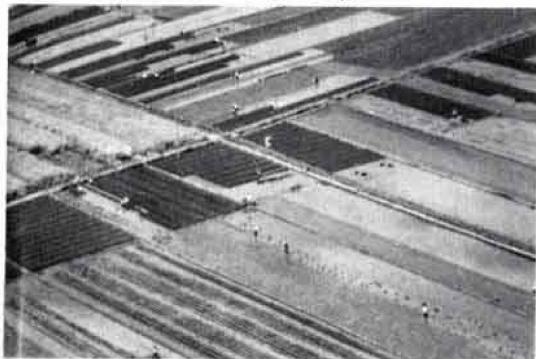
九月六日(日)を中心に、各地区で体育祭が行われています。これから十月にかけては学校の運動会も行われ、いよいよスポーツの秋となります。大きな声では言えませんが、編集室にも二人のランナーがいます。現在、十一月に行われる河口湖マラソンに向けてひそかに練習を行っています。さてどうなることか……。

ニイハオ 你好



か こう 嘉興市

▽嘉興市郊外の米作地帯



御飯が中心の食生活

中国大陸は広いので、住んでいる地域によって食生活はかなり違います。北京など北の地方の人は、小麦粉でつくった饅頭(まんじゅうの中にあんこが入っていないもの)をよく食べ、嘉興市の位置する揚子江より南側地域は、御飯が中心の食生活です。

中国も日本と同じように御飯を炊きますが、品種が違うためか、中国の米は粘りが少なくパサパサした感じですよ。

また、おもしろいことに、方便面と言う日本のインスタントラーメンも、中国で生産されています。長い歴史を持つ中国ですが、便利さを求める時代の流れは、食生活の上でも徐々にあらわれているようです。

(内容は、5月から富士市役所で中国語会話講座の講師を勤めている、東京大学大学院研究生侯冰洁さんから取材しました)